



「バックエンド部会」

第62回全体会議

日時: 2025年3月13日(木) 12:10~12:50

会場: 日本原子力学会「2025年春の年会」

オンライン開催 H会場(Zoomルーム8)

「バックエンド部会」第62回全体会議



2025年3月13日(木) 12:10～12:50 H会場(Zoomルーム8)

【議事次第】

1. 2024年度バックエンド部会表彰

2. 2024年度活動報告

2-1.企画A報告：企画セッション、プログラム編成委員

2-2.企画B報告：バックエンド夏期セミナー

2-3.企画C報告：ポジション・ステートメントWG他

2-4.広報報告：部会HP小委員会活動、週末基礎講座

2-5.出版報告：部会誌の発行

2-6.庶務報告：支援制度、2025年度運営委員改選選挙結果

2-7.会計報告：通常予算、セミナー予算、全体収支



1. 2024年度バックエンド部会表彰

2024年度バックエンド部会賞 受賞要件



功績賞

バックエンド分野において幅広くかつ顕著な貢献のあった個人、毎年1名以内

業績賞

バックエンド分野において顕著な学術または技術上の業績のあった個人またはグループ、毎年2名以内もしくは1グループ以内

奨励賞

バックエンド分野において顕著な学術または技術上の業績のあった概ね40才までの個人、毎年3名以内

功績賞



受賞者

亀井 玄人 殿（日本原子力研究開発機構）

選考理由:

受賞者は、37年間にわたり放射性廃棄物処分の研究開発や事業に従事してきた。研究面では、とくに処分システムの長期評価に係るナチュラルアナログ研究において独創的な成果を挙げた。また、TRU廃棄物地層処分セーフティケース関連では、第2次TRUレポート取りまとめ主査として、電力事業者との連携のもとにこれを完成させ、TRU廃棄物の地層処分が技術的に実現可能であることを提示した。さらに、経済産業省資源エネルギー庁が主導する地層処分研究開発調整会議では、課題抽出等に係る調整に主体的に貢献し、その後の同庁の地層処分研究開発事業のうち、ニアフィールドシステム評価確証技術開発、TRU廃棄物処理・処分技術高度化開発等を実施責任者として推進した。加えて、2003年から19年間にわたり金沢大学の客員教授を務め、原子力機構との連携ネットワーク講座教員として様々な大学の学生に地層処分の基礎を講義したほか、社会人博士コースの指導を行った。2022年からは、研究施設等廃棄物の浅地中埋設事業に従事し、技術広報や若手人材育成等を進めている。

以上より、受賞者のバックエンド分野における功績は著しく、功績賞に値するものと思料する。

功績賞



受賞者

亀井 玄人 殿

(日本原子力研究開発機構)



受賞者からひとこと



功績賞を受賞して 亀井 玄人 様



この度は日本原子力学会バックエンド部会功績賞というたいへん名誉ある賞を頂くこととなり、深い喜びを感じつつも、同時にこれまでご指導、ご協力いただいたみなさまに、改めて深い謝意を申し上げます。

現在は、原子力機構において研究施設等廃棄物の埋設事業に従事しておりますが、次の世代を担う人材が育ってきていて、頼もしく感じています。このさき知識や技術がいかに蓄積、発展していこうとも、基本をしっかりと把握しておくことが重要と考え、そうしたことに微力ながら貢献して参ります。エネルギーの安定供給や放射線利用の便益を持続可能とするために、バックエンド関係事業の重要性は申すまでもございません。これを支えるバックエンド部会のみなさまの益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。まことにありがとうございました。



受賞者

日本原子力研究開発機構 幌延深地層研究センター 殿

選考理由:

受賞者は、我が国唯一の堆積岩を対象とした地下研究施設であり、地下深部の岩盤や地下水の調査・評価技術を開発するなど、我が国における地層処分技術の基盤整備や、国内外の関連分野の研究進展に大きく貢献した。また、大深度地下における坑道掘削技術、人工バリア施工技術等の実証、原位置トレーサー試験による物質移行モデルの高度化など、地層処分システムの工学技術や安全評価技術の信頼性向上に大きく貢献した。さらに、地下施設を利用した共同研究を国内外機関と実施してきたほか、令和5年からは幌延国際共同プロジェクトを推進しており、これらの共同研究や国内外の人材育成プログラムの現地研修への協力等を通じて、研究者・技術者の育成に貢献してきた。加えて、地下施設およびゆめ地創館の施設公開や、ホームページでの情報発信等を通じて、地層処分や研究開発に関する国民との相互理解の促進に大きく貢献してきた。

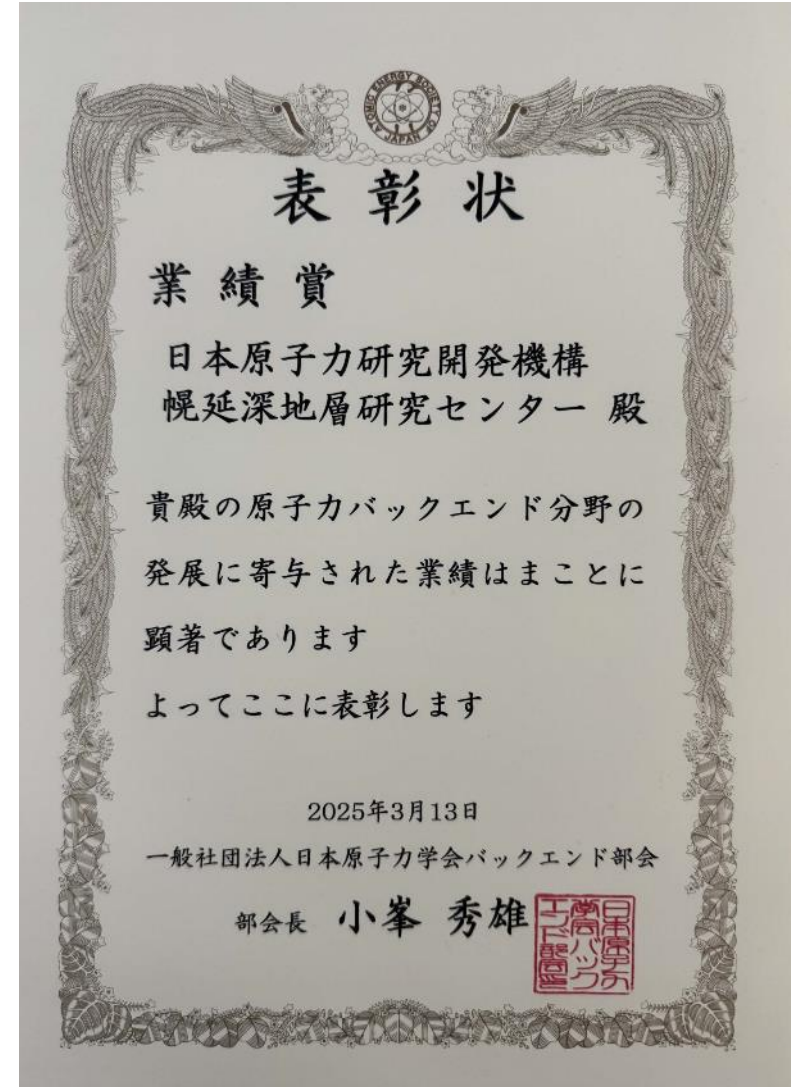
以上より、受賞者のバックエンド分野における業績は著しく、業績賞に値するものと思料する。

業績賞



受賞者

日本原子力研究開発機構
幌延深地層研究センター 殿



受賞者からひとこと



業績賞を受賞して JAEA幌延深地層研究センター代表として

佐藤稔紀所長より



この度は、JAEAの幌延深地層研究センターのこれまでの取り組みに対し、バックエンド部会より「業績賞」をいただき、大変光栄に存じます。

北海道幌延町において、平成13年に幌延深地層研究計画に着手し、地上からの調査研究、坑道掘削時の調査研究、地下施設での調査研究と、約25年にわたり段階的に研究を進め、多くの成果をあげることができました。計画の推進にあたっては、関係する自治体、企業、研究機関や大学の研究者など多数の方々からのご協力をいただき、この場をお借りして改めて御礼申し上げます。

当センターでは、現在深度500mの坑道整備を進めており、地層処分の実現に向け貢献すべく、引き続き深地層研究や理解促進活動に取り組んでまいります。今後とも、皆様方のご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。



受賞者

中林 亮 殿（電力中央研究所）

選考理由：

中林氏の研究論文「放射性廃棄物処分場の施設設計におけるALARAとBATの在り方—英国の規制文書における位置づけ—」は、英国の放射性廃棄物管理ならびに放射性廃棄物処分場に適用されるALARAとBATの考え方を明らかにすべく、規制関連文書を調査し、その結果を踏まえて、わが国の放射性廃棄物処分場の施設設計にBATの概念を適用するうえでの示唆が述べられている。

本論文に対しては、査読者からも「英国規制文書の体系的な分析により、放射性物質管理全体、放射性廃棄物処分場の設計、及び処分場閉鎖後長期の安全評価に関わるBATとALARAの考え方を、時間軸に沿って整理、解説し、我が国への適用に対する言及と示唆が成されている。他国の経緯から今後の自国へ適用を検討、考察する独自性と波及性を有するものである。」との高い評価を得ている。

以上より、バックエンド分野における顕著な学術的業績であり、奨励賞に値するものと思料する。

奨励賞



受賞者
中林 亮 殿

(電力中央研究所)



受賞者からひとこと



奨励賞を受賞して 中林 亮 様



このたびは日本原子力学会バックエンド部会奨励賞を賜り、大変光栄に存じます。私は2013年に電力中央研究所に入所して以来、放射性廃棄物処分の確率論的な安全評価に関する研究に従事してまいりました。近年では、放射線防護の概念であるALARA(合理的に達成可能な限り低く)やBAT(利用可能な最善の技術)のもと、処分施設をより安全かつ頑健に設計できるかを研究テーマとしております。また、解析的な研究にとどまらず、放射化金属から溶出する放射性炭素の化学形態を解明するための実験的研究にも取り組んでおります。これらの研究は、多くの方々のご支援とご指導のもと成し遂げてきたものであり、この場をお借りして心より感謝申し上げます。今回の受賞を励みとし、今後も研究活動に一層精進するとともに、自身も周囲の皆様を支え、貢献できる存在へと成長してまいりたいと存じます。改めまして、誠にありがとうございました。



優秀講演賞

バックエンド分野に関する，日本原子力学会またはバックエンド部会が主催・共催する行事において優れた口頭発表をおこなった個人を対象。各行事で原則1件以内。また，学生優秀講演賞を別途設置する場合には，各行事でさらに1件を追加。

ポスター賞

バックエンド分野に関する，日本原子力学会またはバックエンド部会が主催・共催する行事において優れたポスター発表をおこなった個人を対象。各行事で原則1件以内。また，学生賞を別途設置する場合には，各行事でさらに1件を追加。

優秀講演賞



2024年 春の年会
受賞者

今野 力 殿

(日本原子力研究開発機構)

選考理由:

2024年春の年会の口頭発表2A05「JENDL-5から作成したORIGEN用崩壊ライブラリと核分裂収率ライブラリ」について、「“優秀講演賞”の評価基準」に基づく採点の評価結果による。



受賞者からひとこと



2024年 春の年会 優秀講演賞を受賞して **今野 力** 様



「日本原子力学会 2024年春の大会」でのバックエンド部会「優秀講演賞」に選出いただきどうもありがとうございました。私たちが行なっている地味な研究の発表でこのような大変名誉な賞をいただけるとは夢にも思ってもいなかったので本当に驚きました。今後もバックエンド部会に微力ではありますが貢献していきたいと思えます。なお、今回の受賞は、共著者の原子力機構の河内山 真美さん、林 宏一さんのご協力のおかげで、お二人に深く感謝申し上げます。

学生優秀講演賞



2024年 春の年会
受賞者

五嶋 智久 殿

(福井工業大学)

選考理由:

2024年春の年会の口頭発表 2A03「原子カプ
ラントの廃止措置に伴う鉛ブロックの切断手法の
研究開発Ⅳ」について、「“学生優秀講演賞”の評
価基準」に基づく採点の評価結果による。



受賞者からひとこと



2024年 春の年会 学生優秀講演賞を受賞して **五嶋 智久 様**



この度は、バックエンド部会様より学生優秀講演賞をいただきまして、大変光栄に存じます。

本研究を進めるにあたり、ご指導いただきました福井工業大学の砂川武義教授を始め、バックエンド部会の皆様に心より御礼申し上げます。

今回の受賞を励みにバックエンド分野の発展に貢献できるよう、より一層精進していく所存です。この度は、誠にありがとうございました。

優秀講演賞



2024年 秋の年会
受賞者

吉田 健太 殿

(東北大学)

選考理由:

2024年秋の大会の口頭発表 2L02「燃料デブリ分析のための超微量分析技術の開発 (27) 球面収差補正透過電子顕微鏡を用いた模擬デブリの微細組織評価 (II)」について、「“優秀講演賞”の評価基準」に基づく採点の評価結果による。



受賞者からひとこと



2024年 秋の年会 優秀講演賞を受賞して **吉田 健太** 様



この度は優秀講演賞を頂き大変光栄に存じます。
私は球面収差補正透過電子顕微鏡を用いて、鉄系燃料デブリの局所構造を原子スケールで三次元的に解析しています。この場をお借りして、これまでの共研で鉄系模擬デブリやMCCIデブリなどの貴重な分析試料を提供してくださった関係者の皆様に、心より感謝の意を表します。

今後、福島第一原発のデブリ試験評価が進む中で、私たちが確立した分析技術や微細加工技術を活用し、顕微鏡分野から貢献貢献していく所存です。特に、多孔質の鉄系燃料デブリに対する大面積イオンビーム加工法の開発と、放射光X線顕微鏡によるイメージングとの連携を進める予定です。

バックエンド部会の皆様からのご指導とご支援を、引き続きよろしくお願い申し上げます。

学生優秀講演賞



2024年 秋の年会
受賞者

木賊 尋也 殿

(東海大学)

選考理由:

2024年秋の大会の口頭発表3M02「ニューラルネットワークを用いた地層処分の断層シナリオに対する不確実性解析」について、「“学生優秀講演賞”の評価基準」に基づく採点の評価結果による。



受賞者からひとこと



2024年 秋の年会 学生優秀講演賞を受賞して **木賊 尋也** 様



この度は、学生優秀講演賞を頂き、誠にありがとうございます。このような栄誉ある賞をいただき、大変光栄に感じております。研究を進めるにあたり、ご指導いただきました若杉圭一郎教授に心より感謝申し上げます。

本研究は、断層帯の構造を現実的に考慮した核種移行モデルを構築するとともに、これを用いて断層が処分場内で発生した場合の影響を断層の規模、発生位置、発生時刻などの不確実性を考慮して評価するために、ニューラルネットワークを用いた線量評価の手法を構築しました。現在、予測式の精緻化や感度解析を通じて不確実性パラメータの影響度の分析を進めております。

今回の受賞を励みに、今後も研究に尽力し、バックエンド分野の発展に貢献してまいります。この度は、誠にありがとうございました。

学生優秀講演賞



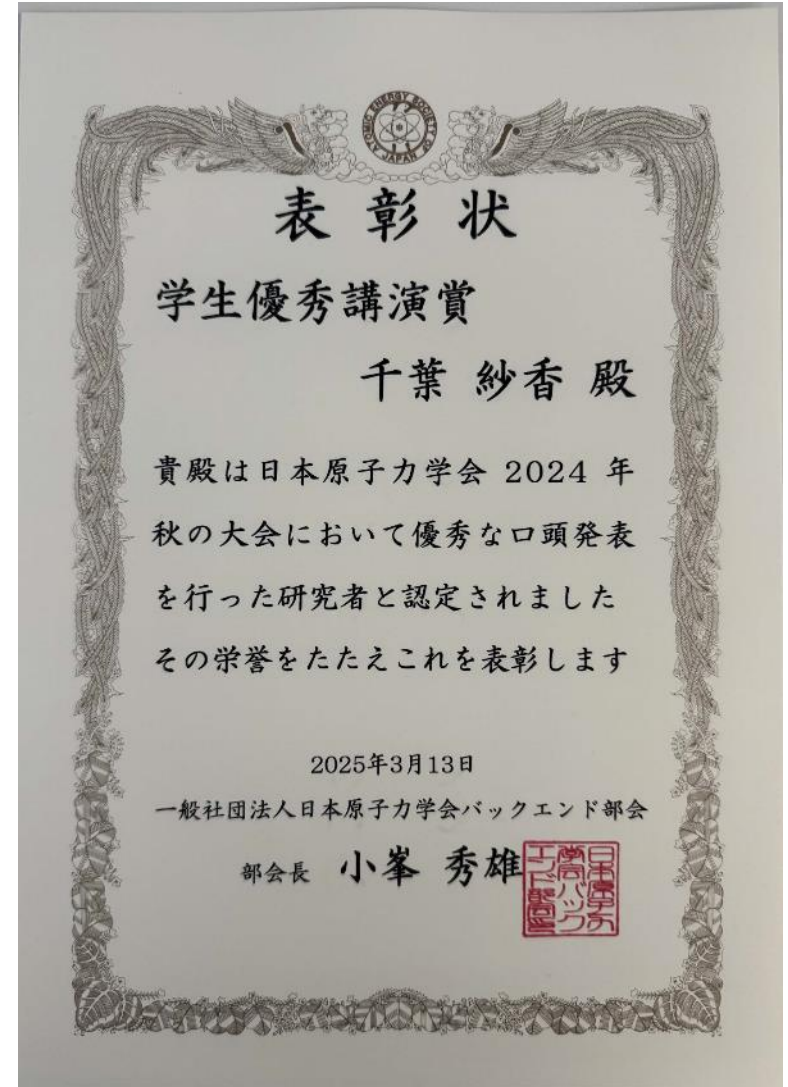
2024年 秋の年会
受賞者

千葉 紗香 殿

(東京都市大学)

選考理由:

2024年秋の大会の口頭発表3K07「白金族合金の廃液共存下における溶解機構の検討」について、「“学生優秀講演賞”の評価基準」に基づく採点の評価結果による。



受賞者からひとこと



2024年 秋の年会 学生優秀講演賞を受賞して 千葉 紗香 様



この度は学生優秀講演賞という大変栄誉ある賞を賜りまして、誠に光栄に存じます。本研究を進めるにあたり関係者の皆様には大変ご尽力賜りました。この場をお借りして御礼申し上げます。

本受賞を励みに、今後も精進して参ると共にバックエンド分野の発展に貢献出来れば幸いです。

ポスター賞



第40回バックエンド夏期セミナー 受賞者

大城 遥一 殿

(原子力発電環境整備機構)

選考理由:

第40回バックエンド夏期セミナーポスターセッション「先新第三紀付加体堆積岩類に関する地質環境特性データの拡充」について、「“ポスター賞”の評価基準」に基づく採点の評価結果による。

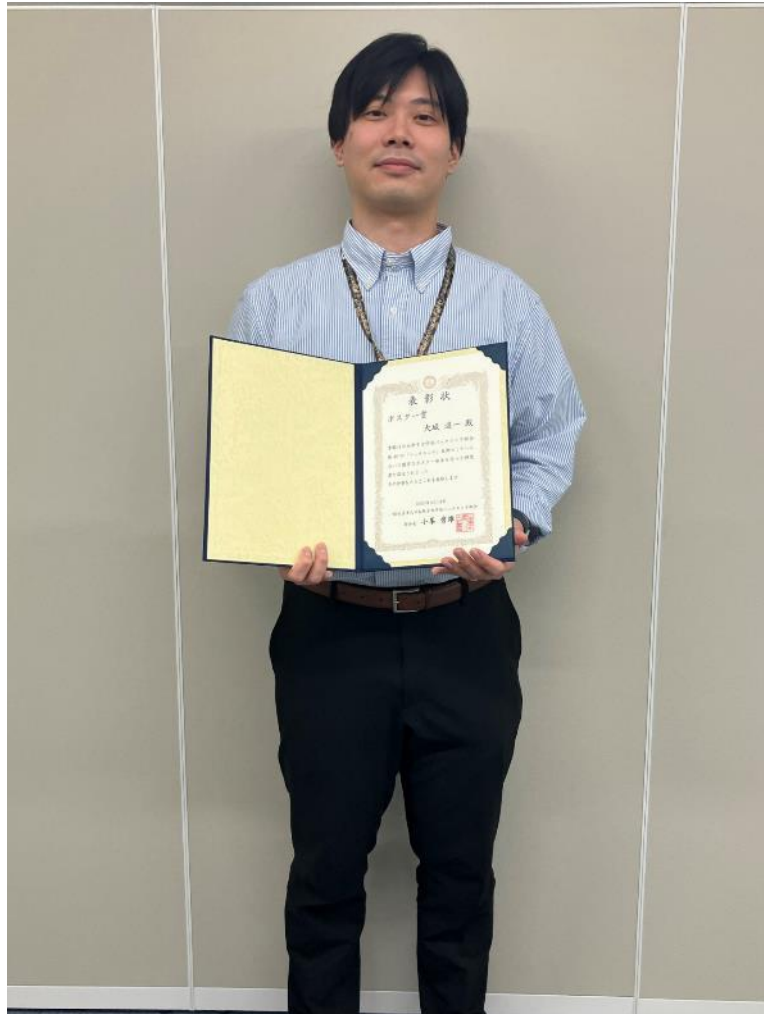


受賞者からひとこと



第40回バックエンド夏期セミナー

優秀ポスター賞を受賞して **大城 遥一 様**



この度、バックエンド部会よりポスター賞を頂きまして、大変光栄に存じます。本件関係者の方々に心より御礼申し上げます。

今回の受賞を励みに、NUMO職員として引き続き真摯に業務に取り組むとともに、地層処分事業ならびにバックエンド分野の発展に貢献できるよう、一層の努力をしてまいりたいと思います。

ポスター賞



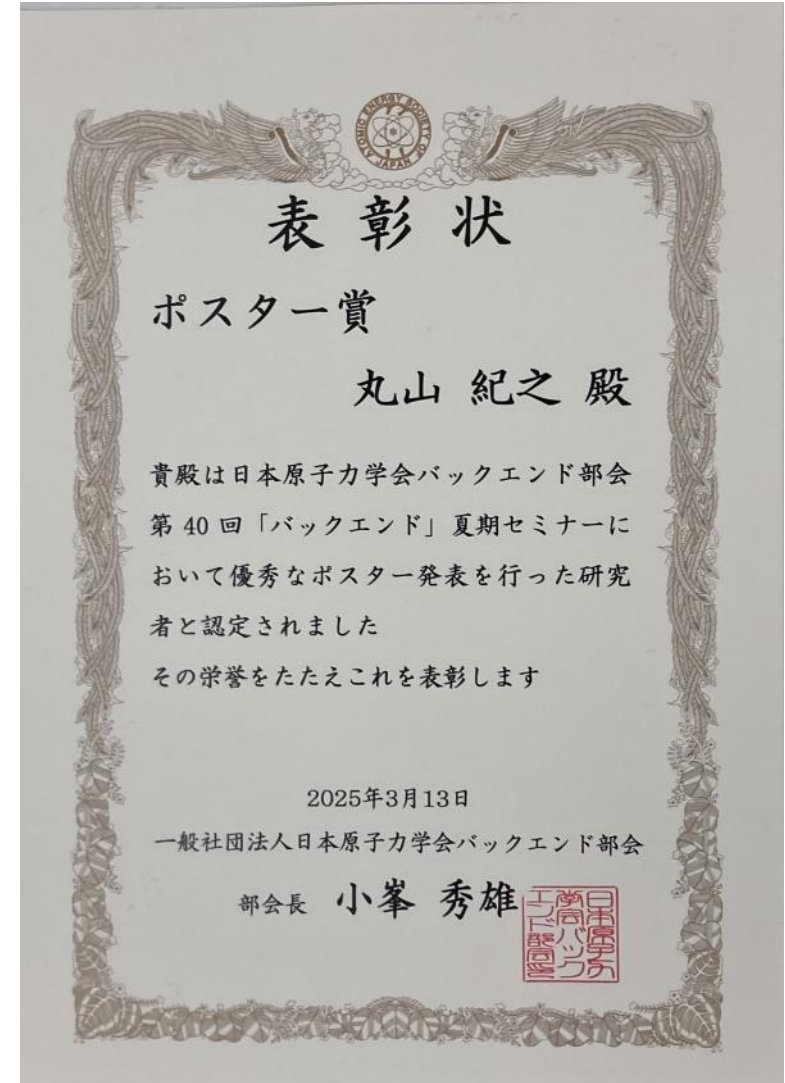
第40回バックエンド夏期セミナー 受賞者

丸山 紀之 殿

(原子力環境整備促進・資金管理センター)

選考理由:

第40回バックエンド夏期セミナーポスターセッション「TRU廃棄体パッケージの製作技術の成立性確認」について、「“ポスター賞”の評価基準」に基づく採点の評価結果による。



受賞者からひとこと



第40回バックエンド夏期セミナー

優秀ポスター賞を受賞して **丸山 紀之 様**



「このたび、日本原子力学会バックエンド部会のポスター賞を受賞することができ、大変光栄に思います。本ポスターでは、現在進めている「廃棄体パッケージ溶接部の健全性」に関する研究の一環として得られた成果の一部をまとめました。廃棄体パッケージの製作技術の成立性を評価するにあたり、実機と要素試験の結果に差が生じることをあらかじめ想定し、その影響を適切に分析・評価することが重要です。今回得られた知見は、今後の類似の廃棄体パッケージや新たな処分容器の開発に活用できるものと考えています。本研究のさらなる成果については、改めて発表する機会を持ちたいと考えております。最後に、貴重な発表の機会をいただいた日本原子力学会バックエンド部会に深く感謝申し上げます。今後も技術の発展に向けて尽力してまいります。」

2024年度バックエンド部会賞 受賞要件



論文賞

部会誌「原子力バックエンド研究」に掲載された過去3年間の論文を対象。毎年1編以内。ただし、主著者が同一であり、複数の論文が一連となっている場合は、1編とみなすことができる。

功労賞

バックエンド部会の発展に顕著な功労のあった個人を対象。平成27年度新設。毎年2名以内。

本年度は功労賞の該当者はナシ。

論文賞

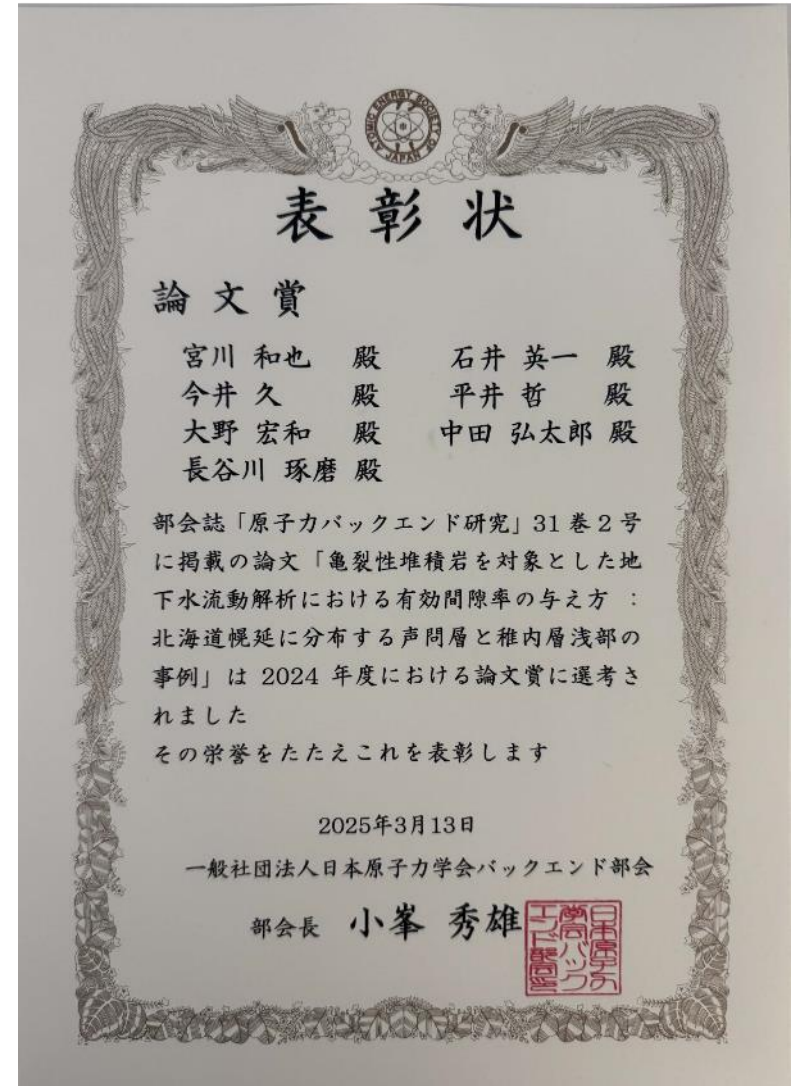


受賞者

宮川 和也	殿	日本原子力研究開発機構
石井 英一	殿	日本原子力研究開発機構
今井 久	殿	株式会社安藤・間
平井 哲	殿	株式会社安藤・間
大野 宏和	殿	日本原子力研究開発機構
中田 弘太郎	殿	電力中央研究所
長谷川 琢磨	殿	電力中央研究所

選考理由:

部会誌「原子力バックエンド研究」Vol.31-2 (2024.12)に掲載の論文「亀裂性堆積岩を対象とした地下水流動解析における有効間隙率の与え方: 北海道幌延に分布する声問層と稚内層浅部の事例」について、「“論文賞”の評価基準」に基づく採点の評価結果による。



受賞者からひとこと



論文賞を受賞して **宮川 和也** 様

共著者の皆様を代表して



このたびは私共の研究論文「亀裂性堆積岩を対象とした地下水流動解析における有効間隙率の与え方: 北海道幌延に分布する声問層と稚内層浅部の事例」を論文賞という栄誉ある賞に選定いただき、著者一同、大変光栄に感じております。本論文は、査読者の皆様から頂いた広い視点からの数多くの有益なご助言により分かりやすさが大きく改善されました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。本受賞を励みに、今後もより一層精進して参りたいと思います。



2. 2024年度活動報告



【2025年春の年会】

□バックエンド部会 企画セッション

[2H_PL] 原子力発電所から発生する金属廃棄物の再利用

2025年3月13日(木) 13:00 ~ 14:30 H会場(Zoomルーム8)

座長: 森下 喜嗣(TAS)

[2H_PL01] クリアランス金属の再利用に係る取組みについて

上山 裕 (電事連)

[2H_PL02] 嶺南Eコースト計画における原子カリサイクルビジネスについて

前田 耕作 (福井県)

[2H_PL03] 福島第一原子力発電所における金属がれき等の減容及び再利用について

高木 昌和 (東電HD)

[2H_PL04] パネルディスカッション

講演者全員

松田 貴光 (福井県)

奈良 篤人 (エネ庁)

井口 哲夫 (名大)

【2025年秋の大会】

企画のアイデア・ご希望がございましたら、運営小委員会委員までご連絡ください！

(後日に部会メールで案内)



□ 以下の方々にプログラム編成にご尽力いただきました。

コード	専門分野	WGリーダー	WGメンバー
505-1	放射性廃棄物 処理	桜木 智史 (原環センター)	有馬 立身(九大) 川崎 大介(福井大) 佐藤 淳也(JAEA)
505-2	放射性廃棄物 処分と環境	中林 亮(電中研)	近藤 陽太(日立GE) 桜木 智史(原環センター) 中林 亮(電中研)
505-3	原子力施設の 廃止措置技術	川崎 大介(福井大)	副島 吾郎(JAEA) 武田 匡樹(JAEA) 田窪 勇作(NUMO)

(敬称略)



とき：2024年8月29日(木)

ところ：オンライン(TEAMS会議)*

テーマ：バックエンド分野の社内的受容

*台風10号接近の影響により、現地開催を中止し、
オンライン開催に変更(2日目の見学会は中止)

参加登録者数：44名(正会員29名、学生会員2名)

■基調講演：地層処分が社会の信頼を得るにはどうすべきか？

東京電機大学 工学部 人間科学系列 寿楽 浩太 教授

■パネルディスカッション

寿楽 浩太 様：東京電機大学 工学部 人間科学系列 教授

植田 昌俊 様：原子力発電環境整備機構 理事

龍原 毅 様：パシフィックコンサルタンツ株式会社 国土基盤事業本部チーフプロジェクトマネージャー

地井 桐理子 様：東海大学大学院 工学研究科 応用理化学専攻 原子力工学領域

■ポスターセッション

出展15件、以下2件を優秀ポスター賞として表彰

➤「先新第三紀付加体堆積岩類に関する地質環境特性データの拡充」 NUMO 大城 遥一 様

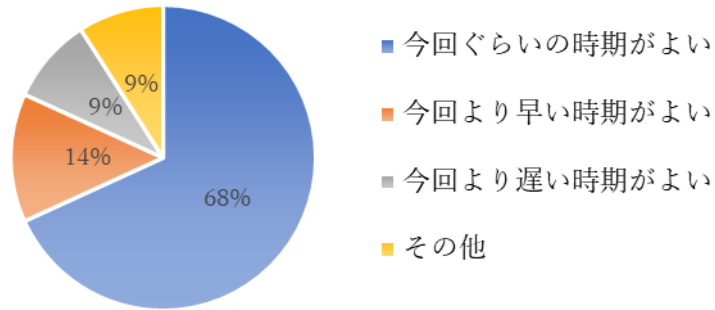
➤「TRU廃棄体パッケージの製作技術の成立性確認」 原環センター 丸山 紀之 様

講演再録、及び夏期セミナー参加記を部会誌12月号に掲載

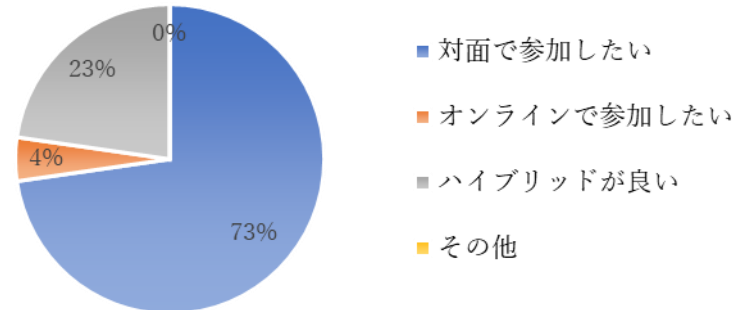


■アンケート結果(一部抜粋)

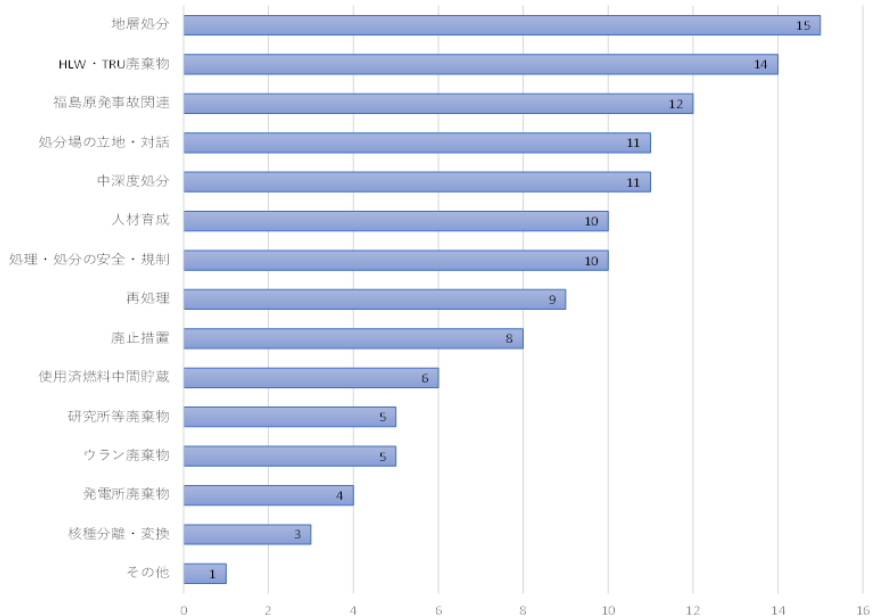
開催時期



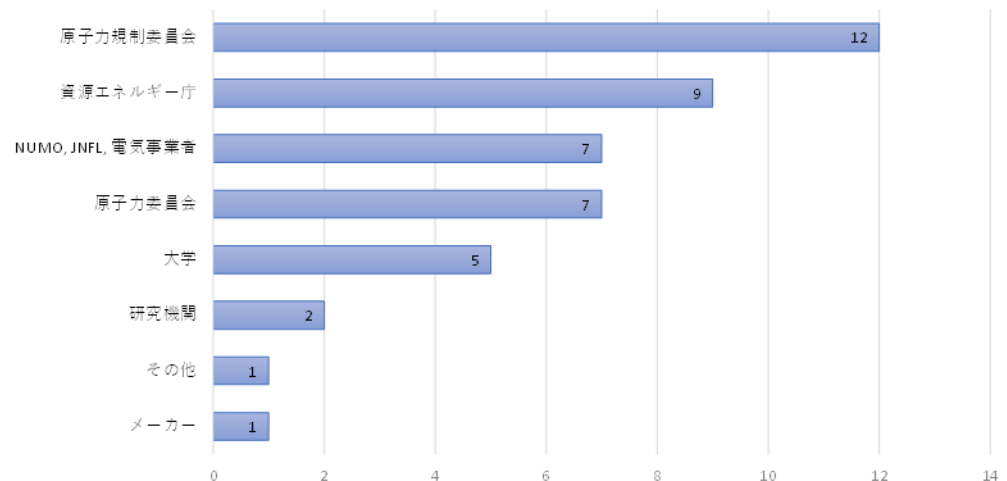
開催形式



興味のある講演テーマ



講演者の希望





以下で詳細を検討・調整中。

○開催日 : 2025年 8月28(木)PM ~ 29日(金)

○開催場所 : 名古屋周辺で調整中

○内容 : 講演、Gr討議、懇親会※、見学会※

※オプション

○見学会 : NEXCO中日本 養老トンネル(調整中)



□PSWG (ポジション・ステートメントWG)

- ポジション・ステートメント改革に伴い、現行PSのうち、バックエンド部会が担当していた下記2つのポジションステートメントを見直し中
- 「高レベル放射性廃棄物の地層処分」(提言⇒提言)
 - 理事会メール審議でのコメントに対応済み。3月の理事会審議を経て、承認される見込み。
 - 今後、英語翻訳版を作成予定。
- 「クリアランス」(解説⇒提言)
 - 今後、PSWG Bチームで再審議予定。

□EAFORM

- 次回ホスト国は中国。
- 本来は2024年秋ごろの開催予定だが、中国への渡航制約等、各国の状況を踏まえ開催時期を決める。

□日韓原子力学生・若手研究者交流事業運営

- BE部会として今年度の日韓若手研究者の交流の実績は特に無し。



1. 部会ホームページの管理・運用(9/1～3/12)

<https://nuce.aesj.or.jp/>

- ・部会誌「原子力バックエンド研究」Vol.31 No.2 掲載、記事・論文等の先行掲載
- ・バックエンド週末基礎講座案内の掲載・第61回全体会議の資料、議事録の掲載
- ・バックエンド部会 部会賞表彰細則の掲載更新
- ・海外発表助成制度、部会賞推薦の募集案内の掲載
- ・運営委員改選のお知らせ及び結果の掲載

2. バックエンド部会情報メールサービス(メーリングリストによる情報連絡)

配信実績：R6年度下期 **24件**(9/4～3/12), 配信先 **386名**(3/12現在)

お知らせ とお願い

メール配信開始/停止, アドレス変更は部会員からの申告によって行います。(部会加入と連携していません)

配信エラーが続くと自動的に配信停止となります。

メール配信ご希望の方, アドレスの変更があった方は広報担当までお知らせください。

e-mail: info@nuce.aesj.or.jp (部会ホームページをご覧ください)

3. ホームページ小委員会メンバー

小林 大志	京都大学	広報委員(2023～)	HP更新, メール配信等の窓口, 運営小委員会との連絡調整
藤原 健壮	原子力機構	広報委員(2024～)	同上
佐々木 隆之	京都大学		運営全体の俯瞰, 企画・提案
秋山 大輔	東北大学		部会情報メール メーリングリスト管理, メール配信
佐原 聡	原環センター		HPサーバー運用・管理(主担当)
平野 史生	原子力機構		HPサーバー運用・管理



■ 日程:第1回(10/18(金)14:00~17:00(オンライン(Zoom)), 第2回(11/29(金)14:00~17:00(オンライン(Zoom))
第3回(12/6(金)13:00~16:30(対面(日本原子力研究開発機構 核燃料サイクル工学研究所))

■ 参加人数:19名(第1回), 14名(第2回), 14名(第3回)

■ プログラム:オンライン2回, 対面1回の計3回に分けて以下の講義を行った。講義後には少人数のグループに分かれて講義内容についてのディスカッションを行い, その中で出た質問について講師の方にお答えいただいた。

【講座1】核燃料サイクルとバックエンドの基礎(NUMO 柴田 雅博 氏)

【講座2】原子力施設の廃止措置(日本原電 堀 一真 氏)

【講座3】低レベル放射性廃棄物処分について(日本原燃株式会社 齊藤 康明 氏)

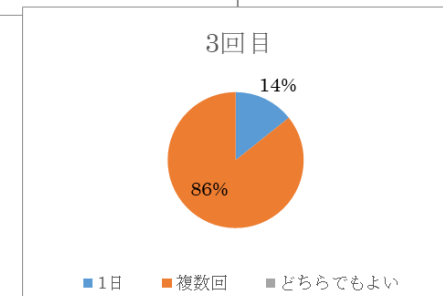
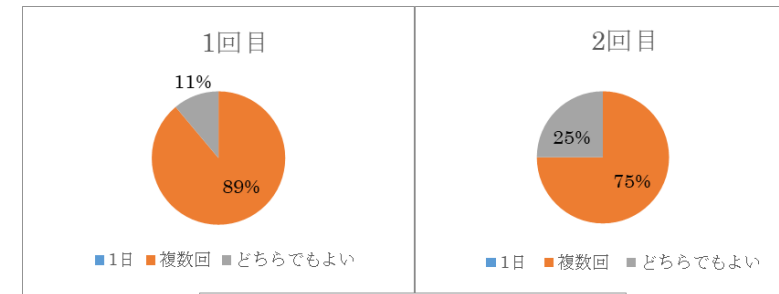
【講座4】高レベル放射性廃棄物処分について(NUMO 藤田 和果奈 氏)

【講座5】地層処分研究の概要(JAEA 深津 勇太 氏)

【講座6】人工バリアの長期挙動に関するナチュラルアナログ研究(JAEA 三ツ井 誠一郎 氏)

【施設見学】核燃料サイクル工学研究所 エントリーとクオリティ

- **全体構成、開催時間:**肯定的な回答が大部分を占めており、分割開催や3回目の対面開催については、「1日で多くの知識を詰め込むよりも、複数回に分けることで習得した知識の整理がしやすいと感じるため。」「分野の方と顔を合わせる機会があると、今後の仕事への向き合い方が変わるような気がしました。」やスケジュール調整がしやすい等が挙げられた。
- **講義のラインアップ:**今回のラインアップで良いとの意見が9割以上を占めた。今後へのアイデアとして、「今回の基礎的な内容に加え、1F関連廃棄物についてもお話を伺えるとさらにありがたかった」とのコメントがあった。
- **開催方法:**開催方法については、「オンラインと対面が良い」が7割を占め、「オンラインが良い」を大きく上回り、「対面が良い」の票がなかった。また、開催日程については、平日希望、複数回に分けた方が良いが8割しめた。



Q8 開催方法



■ 部会誌「原子力バックエンド研究」 Vol.31 No.2をウェブサイトで公開中

巻頭言	横手 広樹	最終処分の実現に向けた国の取り組み
研究論文	中林 亮	放射性廃棄物処分場の施設設計におけるALARAとBATの在り方 – 英国の規制文書における位置づけ –
研究論文	宮川 和也	亀裂性堆積岩を対象とした地下水流動解析における有効間隙率の与え方：北海道幌延に分布する声問層と稚内層浅部の事例
総説	三ツ口 丈裕	地球表層環境のヨウ素129研究の現状と考察：地質環境長期安定性評価に向けて
会議参加記	黒田 知真	「16th International Congress of International Radiation Protection Association」参加報告
会議参加記	中林 亮	「ナチュラルアナログ研究ワークショップ2024」参加報告
特集：第40回バックエンド夏期セミナー		
会議参加記	中林 亮	「第40回バックエンド夏期セミナー」参加報告
講演再録	寿楽 浩太	地層処分が社会の信頼を得るにはどうすべきか？： 現行政策・制度が持つ「逆機能」に着目して

敬称略



■ 部会誌「原子力バックエンド研究」 Vol.31 No.2をウェブサイトで公開中

特集：日本原子力学会2024年秋の大会 バックエンド部会企画セッション 幌延国際共同プロジェクトの現状と今後の展開		
会議参加記	宮嶋 篤海	日本原子力学会2024年秋の大会 バックエンド部会企画セッション 幌延国際共同プロジェクトの現状と今後の展開
講演再録	青柳 和平	(1)幌延深地層研究計画における国際共同プロジェクトの重要性
	尾崎 裕介	(2)タスクA：物質移行試験
	早野 明	(3)タスクB：処分技術の実証と体系化
	大野 宏和	(4)タスクC：実規模の人工バリアシステムの解体試験
	バックエンド部会 運営小委員会	(5)総合討論
会告		バックエンド部会 関連行事予定

敬称略



■ 部会誌のさらなる内容充実にご協力をお願いします

- ・ 積極的な投稿（情報発信の場としての活用）をお願いします。
概ね40歳までの研究者・学生の論文は、論文賞のみならず
奨励賞の対象となります。
- ・ 査読へのご協力をお願いします
- ・ 特集テーマのご提案をお願いします

※論文の投稿または部会誌へのご意見/ご要望等は下記メールへ

journal@nuce.aesj.or.jp

<http://nuce.aesj.or.jp/journal:info>



【海外発表助成制度】

- 若手研究者の海外発表に関する渡航滞在費を助成
- 半期あたり原則1名を対象に13.5万円を限度に助成
- 詳しくは部会ホームページに掲載の募集要領を参照
- 2024年度実績：上期分(2月10日締切) 応募なし
下期分(8月10日締切) 助成済み(応募1件)
- 2025年度実績：上期分(2月10日締切) 応募なし
予定：下期分(8月10日締切) 募集中



【研究会支援制度】

- 部会員から研究テーマを公募して研究会を設置
- 研究会の費用を年間13.5万円までを目安に支給
- 会期は最長3年とし、適宜成果を取りまとめて発表
- 詳しくは部会ホームページに掲載の募集要領を参照
- 2024年度実績：応募なし
- **2025年度予定：現状なし**





2025年度 運営委員改選選挙結果(敬称略)

2025年2月21日 確定

役職	氏名	所属
部会長	柴田 雅博	原子力発電環境整備機構
副部会長	若杉 圭一郎	東海大学
運営委員	澤口 拓磨	日本原子力研究開発機構
//	小林 正人	原子力環境整備促進・資金管理センター
//	内田 省吾	日揮株式会社
//	秋山 大輔	東北大学
//	山田 淳夫	株式会社安藤・間
//	田川 陽一	鹿島建設株式会社

部会員総数 : **544**(2025/1/14時点) 有効投票数 : **274**(有効投票率 : **50.4%**)



※予算実績推移表2025年1月度に基づく

①通常予算収支

- ✓ Vol.30-1,2掲載料
- ✓ BE部会会費
- ✓ 海外助成金※1

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
受取掲載料	324,500	旅費交通費	0
受取配分金	335,000	通信運搬費	59,898
繰越金(海外助成)	135,000	消耗品費	0
		一般外注経費	208,450
		諸謝金	0
		雑費	550
		支払助成金(事)	135,000
		本部支払回収額	0
<小計>	794,500		403,898

- ✓ 部会HPサーバー代
- ✓ 部会メール配信
- 出版活動費
- ✓ レイアウト校正費
- ✓ J-Stage登録費
- ✓ 請求書発行費
- ✓ 海外助成金

※1 繰越金から補填して対応
残高:8,970,926円
(通常予算>正味財産期末残高を参照)

<収支> 390,602

<予算計画額>	585,000	620,000
<執行率>	136%	65%

- ✓ 収入の部:受取掲載料、受取配分金(BE部会会費)など
- ✓ 支出の部:部会HPサーバー代、J-stage登録費など

出版活動での掲載料収益が多く、2-3月支出予定※2を加味しても
通常予算は約21万円の黒字予定

※2 支出予定として約177,903円(運営委員改選選挙105,765円、トロフィー及び証書ファイルの購入費72,138円、本部回収額及び請求書発行費など少額支出を除く)



※予算実績推移表2025年1月度に基づく

②セミナー予算収支

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
受取参加費	362,500	会議費	0
受取見学会費	0	通信運搬費	800
賛助金	0	消耗品費	4,840
		一般外注経費	43,230
		出展費	0
		委託費	0
		雑費	540
		本部支払回収額	0
<小計>	362,500		49,410
		<収支>	313,090
<予算計画額>	1,460,000		1,425,000
<執行率>	25%		3%

- ✓ 夏期セミナー:337,500円
- ✓ 週末基礎講座:25,000円

✓ レターパック

✓ 事務用品

✓ 集客システム(Peatix)
、資料印刷費

✓ 振込手数料

- ✓ 収入の部:参加費など
- ✓ 支出の部:セミナー開催に係る事務費用など

夏期セミナー(現地開催中止)、週末基礎講座(オンライン2回、対面1回)
年度予算計画額よりも大幅に支出が抑制されたことから、約31万円の黒字



※予算実績推移表2025年1月度に基づく

全体収支

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
①通常予算	794,500	通常予算	403,898
②セミナー予算	362,500	セミナー予算	49,410
<合計>	1,157,000		453,308
		<収支>	703,692
<予算計画額>	2,045,000		2,045,000
<執行率>	57%		22%

ここから1-2月支出予定の約18万円を除く

BE部会2024年度会計収支としては、約52万円の黒字の見込み
(本部回収額を除外し、次年度繰越金へ)

今年度は出版収益やセミナー予算残により大幅な黒字となったが、
物価高騰を受け、収益補填がないと収支均衡は厳しい状況
(繰越金*も一部活用しながら、部会活動の効率化等により長期的に改善をはかっていく)

*「収支均衡を目指すことが基本的な考え方であるものの、特に保有する繰越金が増加傾向にある組織には、単年度収支均衡に固執せず、繰越金も利用した活動の活性化を推奨します。」(「2025年度予算申請」依頼の件、一般社団法人 日本原子力学会2024年10月30日)のとおり、これまで否定的だった繰越金の活用について柔軟な対応が可能となった。



Fin.